

CS こひつじ科礼拝式次第

2022年11月20日 午前9時30分

2022年度年間テーマ：「イエス様の祈り『主の祈り』によって、祈ることを身につけよう」

テーマ曲：ワワワいっしょに（92番）

暗唱聖句：「主により頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。」

エフェソの信徒への手紙 6章10節

8、せいなる（こどもさんびかをお用いください）

おいのり 礼拝に招かれたことを感謝しましょう

せいしよ ヨシュア記6章2～5節

6:2 そのとき、主はヨシュアに言われた。「見よ、わたしはエリコとその王と勇士たちをあなたの手に渡す。

6:3 あなたたち兵士は皆、町の周りを回りなさい。町を一周し、それを六日間続けなさい。

6:4 七人の祭司は、それぞれ雄羊の角笛を携えて神の箱を先導しなさい。七日目には、町を七周し、祭司たちは角笛を吹き鳴らしなさい。

6:5 彼らが雄羊の角笛を長く吹き鳴らし、その音があなたたちの耳に達したら、民は皆、鬨の声をあげなさい。町の城壁は崩れ落ちるから、民は、それぞれ、その場所から突入しなさい。」

[おはなしとおいのり](#)

[「信仰による戦い」](#)

[杉山昌樹牧師](#)

（上のリンクをクリックし再生ボタンをクリックすると音声の流れます。もし途中で止まるようでしたらファイルをダウンロードしてください）

皆さん、お元気ですか？杉山です。今日は、ヨシュア記6章からです。最初に聖書のことばを読んでみましょう。

（けさの聖書箇所を読みましょう）

先週からヨシュア記を読んでいます。新しくリーダーとして立てられたヨシュアさんは、神様が一緒に居てくださったので、不思議な守りによってイスラエルの人たちと一緒にヨルダン川を渡ることができました。そこで、いよいよ神様が約束してくださった土地にたどり着いたのでした。しかし、そこには、とても高く丈夫な壁で囲まれたエリコという町がありました。その町の門は、イスラエルの人たちが入ってこれないように固く閉ざされています。そこで、普通であれば、どうやって門を壊そうか、そうであれば、どうやってこの高い壁を乗り越えようか、と相談を始めるところです。ところが、神様は、その時に、全く違うことを教えてくれました。それは、神様が一緒に居てくださるしるしである、契約の箱を担いだ人たちを中心にして、角笛を鳴らして町の周りをぞろぞろとまわりなさい、という命令でした。ただ、町の周りをぐるぐる回るだけでは何にもならないじゃないかと思いませんか。しかし、これは神様がそのようにしなさいと言われたことでした。そこで、ヨシュアさんたちは、その日から一日一回、角笛を吹く人たちと契約の箱を担ぐ人を中心、前と後ろに武器を持った人たちと一緒に、角笛を吹きながらエリコの町の周りをぐるりと一周することにしました。二日目も三日目も、そして六日の間同じように、町の周りを一周しました。エリコの町の人たちは、不思議に思ったかもしれません。さあ、イスラエルが責めてくるぞ、と思ったら、ただ町の周りをまわってすぐになくなってしまおう、ということをし繰り返していたからです。しかし、七日目は様子が違いました。これも神様の命令に従って、七日目には、エリコの町の周りを七回まわった後で、みんな、オーと大声をあげたのです。すると高い壁はあちこちで

壊れてしまいました。イスラエルの人たちは、今こそと思って町に入って行って、エリコの町を自分たちの物にすることができました。これはとても不思議なお話のような気がします。でも、大切なのは、神様がそうするようにと言われたことを、ヨシュアさんたちがその通りにしたこと。それはやり方も、タイミングも、全部神様が決められた通りでした。自分勝手なやり方ではなく、自分でおかしな工夫をするのでもなく、何でこんなことをするんだろう、と文句を言うのでもなく、神様が決められたとおりにしたときに、神様は約束した通りのことをしてくださいました。そこで大切なのは、神様の約束を信じ信頼して生きることです。聖書にある一番大きな約束は、イエス様が与えられることです。イエス様を信じると神様の子に生まれるという約束です。私たちも聖書にあるとおりの神さまの約束を、何でこうなんだ、というのではなく、神様が教えてくれる通り信じるようにしていきたいのです。

祈り

父なる神さま、あなたは人間を愛して約束を与えてくださいます。その約束が聖書にはいっぱい書かれています。そのなかでも一番大きな約束はイエス様です。私たちがイエス様を信じて、これからもイエス様と一緒にあなたの子として生きていけますように。イエス様のみ名によって祈ります。アーメン。

※ 小さなお子さまには、話の内容等をわかりやすく、年齢に合わせて噛み砕いてお話くださいますようお願い致します。

(けんきん) 会堂2階掲示板下の机に献金箱を設置しました。

おいでの際におささげください。

68、イエス様についていこう (こどもさんびかをお用ください)